

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 特別寄稿「関ブロ長野大会をふりかえる」

4.5

- 2 トピックス 関ブロ新潟大会開催まで半年 開催に向けて 事務局
- 3 視点 「縁の下の力持ち」 佐渡市立松ヶ崎小中学校校長・庄山 忠彦
- 3 ひろば 「私のボランティア活動 ～生涯学習ボランティア養成講座受講後10年の活動～」 見附市・土田 秀
- 6 実践記録シリーズ 「元気の出るふるさと講座（上越市柿崎区・牧区）」 上越市立公民館・小池 和美
- 7 サークル交流 「公民館を拠点に地域づくり」（長岡市）／「歌う楽しさを皆さんに」（五泉市）
- 7 素顔拝見 安澤周一郎さん（阿賀町）／森 敬史さん（胎内市）
- 8 お元気ですか 粟島浦村・本保ちづ子さん
- 8 惠贈資料紹介



～聖籠町社会教育課事業 週末体験クラブ「磐越SLみんな旅」より～

表紙解説

「ドッシュ、ブッシュ」と、まるで呼吸をするかのように津川駅を発車する機関車を憧れの眼で見送る子どもたち。

関ブロ新潟大会開催まで半年 開催に向けて 事務局

〈これまでの経過〉

第54回関東甲信越静公民館研究大会新潟大会(関ブロ新潟大会)は、平成25年8月29日(木)、30日(金)に南魚沼市・湯沢町で開催されます。

県公連では開催に向けて、2年前から開催準備委員会と実行委員会を設けて準備にあたってきました。新年に入りいよいよ開催が間近に迫ってきましたので、これまでの準備状況・経過や開催本番までの活動予定を整理してお知らせします。

まず、平成22年度に準備委員会が設置され、大会開催日、主会場等の概要を審議して県評議員会で承認されました。翌年、平成23年度には準備委員会を実行委員会にして全評議員が実行委員になりました。大会の開催計画を中心に審議して開催要項案を作成しました。同時に、大会運営の組織編成や運営計画の概要も検討され、平成24年度には詳細な組織や大会運営案が県評議員会で承認

認められました。

大会要項案は2月15日(金)に南魚沼市民会館で開催される第3回関ブロ理事会で審議され決定します。

*第2回理事会で大会要項案を説明する湯浅県公連会長(右)



大会開催の予算については、来年度予算を編成する時期にあたり、県内市町村をはじめ関係団体等から予算の計上をいただいているところと

総予算の収入見込みについては

〈大会日程〉

- 1 大会参加費
 - 2 県、開催地補助金
 - 3 全公連、関ブロ補助金
 - 4 大会誌広告等
- が主な収入源でその総額は約500万円ほどです。

大会は2日間にわたって行われますが、1日目の午後開会で2日目の午前で終了という日程は例年どおりです。これは遠隔地から参加する都県の交通事情に配慮したものです。今回の開催地(南魚沼市、湯沢町)は上越新幹線や関越自動車道等の交通アクセスが良い所なので多数の県外参加者を見込んでいます。大会日程は次のとおりです。

8月29日(木)	
受付	11:30〜
開会式	12:30〜
寸劇・講演	13:55〜
引継式	16:05〜

〈これから予定〉

大会開催の準備は、県公連事務局と主管地区の中越地区公民館連絡協議会(地区会長、大会総務部長)等が中心になって行うこととなります。

4月になり、新職員が決まると各市町村にお願いする大会役員(運営委員)の名簿作成になります。その後は役員各部の細部打合せを経て、本番を迎えることとなります。

県公連事務局は、外部渉外を中心に作業を進めますが、予算確保のために大会誌に掲載する協賛企業等の募集を行う作業を現在継続中です。また、まもなく大会誌の作成、編集作業も本格的に始まります。

県公連の総力をあげて取り組み、大会が大成功となりますようご協力をお願いいたします。

8月30日(金)	
分科会打合	8:00〜
分科会	9:00〜
解散	11:50

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行
いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部150円 年間1,800円(いずれも送料含)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301 中野プラザ107 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-266-7711

視点

縁の下の力持ち

佐渡市立松ヶ崎小中学校校長 庄山 忠彦



六月の第二土曜日。午後一時近くになると、学校のグラウンドに三々五々人が集まってくる。畑野地区公民館の分会役員さんたちだ。みんなが集まると作業が始まる。気持ちいいくらい手際よく仕事が進む。あつという間に明日の地区運動会の準備完了。

十一月第一土曜日。地区文化祭準備でも、手際よくパネルを組み立て、写真や絵画などの作品が飾られていく。

松ヶ崎小中学校のある松ヶ崎地区は、公民館分館の活動が非常に活発な地域である。

特に、地区・小中学校・保育園合同開催の「地区運動会」「地区文化祭」では、

その力を遺憾なく発揮している。前述のとおり、分館役員さんが協力して準備に当たっている。

こうして準備された運動会や文化祭に、地区民がこぞって参加する。幼児・保育園児・小中高生からお年寄りまでが、一緒に楽しく運動会・文化祭を楽しんでいる。

松ヶ崎地区の人々が、地域のまとまり、地域の絆を感じて二大イベント。それをしつかりと支える「縁の下の力持ち」の役目を、公民館が担っている。

地区に活気と元気と笑顔を与え、公民館の活動が、一層充実することを期待したい。

HOT NEWS 掲示板

「熟議」1万円の申請継続中

全公連の事業「熟議 in プロジェクト」の申請が継続中です。

各市町村の事業で、事業の目的にそった「熟議」があれば所定の申請書により1回につき1万円の補助が受けられます。「熟議」のテーマが別であれば副数回の申請も可能です。平成24年度の4月以降に実施した「熟議」が対象ですので、すでに終了した事業が対象になります。申請書は簡略化された書類ですから比較的簡単に申請が出来ます。なお、この事業は平成25年度も継続される予定です。

問い合わせ

公益社団法人全国公民館連合会

担当 慶野 誠

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-16-8 飯島ビル3F

電話 03-3501-9666

FAX 03-3501-3481

メール：keino@kominkan.or.jp

書類書式・データ：http://kominkan.or.jp/

私は、2003年見附市中央公民館主催の地域の課題を解決するための講座を企画・立案・運営することを学ぶ生涯学習ボランティア養成講座を受講し、ひきこもりの支援を学習した受講者(第8期生)が中心になって「フレンドスペース」を立ち上げました。不登校・ひきこもり・ニート当事者および保護者の支援をメインに居場所づくりや懇談会、研修会、相談活動などを行っています。私たちは微力ですが、少しでも関係者のお役に立ちたいという思いで続けて参りました。

定例会は毎月第4水曜日19:30~21:00、会場は中央公民館で行っています。定例会への参加者は夜のたぬき多きはありますが、随時の相談には様々な問題を抱えた方が参加しています。相談者と私の都合が良い日



見附市 土田 秀

時に、中央公民館などで相談会を行っています。ボランティアでの活動ですが、秘密厳守でカウンセリング、相談を行っています。

年1回の講演会は、見附市生涯学習プランナー実生の会と見附市市民活動・ボランティア連絡協議会の後援、公民館職員の方とボランティアの協力をいただいて開催し、参加者の方への啓発とお互いのスキルアップを図っています。

多くの方々のご理解とご支援があつてフレンドスペースは活動を続けています。

私のボランティア活動

生涯学習ボランティア養成講座受講後10年の活動



長野大会をふりかえる」

2 大会企画の運営

次に大会の企画内容についてです。ここでは、紙面の都合上、情報交換会・信州発！リレーメッセージ、そして大会速報の3つについて触れてみたいと思います。

(1) 情報交換会：一堂に会するものに

大会初日の「情報交換会」には、松本市の思いを込めさせていただきました。その思いとは、単なるレセプションではなく、大会参加者が一堂に会し、文字どおり「情報交換」の場とすることでした。



この思いを方向性として固めたのは、平成23年6月の県公運協と松本市教育委員会との会合に遡りますが、この思いをもとに、歓迎部会メンバーとの会合・会場下見を重ねました。催しや料理はもとより、出席を促す配慮（住民も含め）、くじ引きの導入や各都県の公民館情報を発信するコーナーを設けるなどの内容を練りました。その甲斐あって、情報交換会の出席者は360人超（通常150～200名の参加）となり、その中には、伊藤課長（文科省）、鹿熊会長（全公連）、白戸教授（基調講演者）のほか実践者などの住民もいて、様々な公民館関係者が参加する場となりました。アンケートでは、「いろんな人と触れあえ、様々な情報交換ができた」等々、当初の狙いがある程度達成できたのではないかと考えています。

(2) 信州発！リレーメッセージ：信州の熱い思いにのせて公民館の役割を発信

2つ目は、「信州発！リレーメッセージ」についてです。この企画考案の発端は、第52回関ブロ茨城大会でのシンポジウムで、内容は5人のシンポジストが、これからの公民館・社会教育への期待等を提言するものでした。大震災直近の開催でありながら、どの提言も変化とメッセージ性に富み、非常に練られた内容であると感じました。

このシンポジウムに大きな刺激を受けて、松本市側（公民館長会・主事会の代表者）での原案組立て、実行委員会での検討を重ねた結果、平成24

年2月によく「信州発！リレーメッセージ」の骨子（県内4つの市町村からメッセージ）が固まってきました。



その後は実施に向けて全体会運営部会と動きを共にしました。全体会運営部会では、実に様々な提案と主体的な取組みがされました。演出的効果を狙うため弦楽四重奏や語りを取り入れる発案をしたり、自分達のネットワークを使い出演者の交渉を行っていました。また、実際4つの市町村へ足を運び、現地関係者と企画趣旨の共有やメッセージ内容の詰めを行い、1回きりでしたが出演者が一堂に集まったのリハーサルも行いました。そうした取組みが、当日のセッティング・進行・仕切りに至るまで、全体会運営部会のメンバーが手作りで組み立てていく原動力になったのではないかと思います。この熱意は少なからず大会参加者にも伝わったのではないのでしょうか。

(3) 大会速報を発行：住民と共に企画

この大会速報は、公民館職員と住民との共同企画です。大会2か月前のある日に「ふと思いついた」公民館報編集委員さんが、公民館主事と意気投合し作り上げていったものです。残された時間がない中、日頃の公民館報で培った企画・編集の習練を活かし、速報3つと号外を発行することができました。大会報告のほか、松本の隠れたお店などの紹介もあり、参加者にとっては思わぬ「お土産」となったのではないのでしょうか。ちなみにアンケートでも概ね高評価いただきました。

3 最後に

他にも触れたいことは沢山ありますが、何はともあれ、県事務局・運営スタッフはじめ多くの方々の心強いご支援・ご協力のもと、無事この大会を終えることができました。今では、心地よい達成感とともに、得難い経験をさせていただいたと思っております。

本大会が、今後の公民館活動の振興に少しでも寄与することができたら幸いです。



特集

特別寄稿 「関ブロ

第53回関東甲信越静公民館研究大会を終えて



大会実行委員長
酒井 重雄

テーマ「明日の公民館を考えよう～地方自治の中での人づくり・居場所づくり・地域づくり～」により、第53回関東甲信越静公民館研究大会を、平成24年9月27日・28日に松本市のキッセイ文化ホール・あがたの森文化会館・Mウィングで開催しました。

関東甲信越静1都10県から公民館関係者1,035名の参加があり、特に貴県からは次期開催県のお立場で多くの皆様にご参加をいただき、総合的な地域づくり・人づくりや地域コミュニティの拠点としての公民館の充実・発展を目指す機会となりました。

また、アンケート調査では、参加者の96.1%の方から大会全般にわたって、「よかった」と高い評価をいただきました。「関ブロの大会には長年参加してきたが、今回は特に充実した大会であり勉強になりました。有り難うございました」「公民館職員として2年になるが日々の業務に追われて、公民館のあり方や地域づくりについて考えられていなかったことに気付かされ、魅力的な公民館や地域づくりについて考え、行動しようという意識になり、勉強になりました」等の感想に、この大会の趣旨が具現された大会であったと実感し、嬉しく思いました。

そして、地域の人々の暮らしと学習を結ぶ公民館の創造が、明日の公民館を考える大切な課題であるとの思いを一層深くしました。

大会運営費の確保について

長野県公民館運営協議会 事務局長
西原 隆司

今回の関ブロ大会では、開催地の松本市が当事務局（長野市）とかなり離れているため、大会実行委員会に大会事務局として「県事務局」と「開催地事務局」を設置しました。

「県事務局は進行管理・庶務・予算執行」を、「現地事務局は大会運営」をそれぞれ担当しました。大会運営の四方山話は、この後、松本市教育委員会にお任せをし、私は「大会運営費の確保」について少し書かせていただきます。

まず、参加者負担金についてですが、県外参加者が多くを期待できない中で、県内参加者の確保に努め、各市町村教育委員会に所要の予算措置（公民館数×2名）を強力にお願いしました。

次に、県補助金についてですが、本県の財政状況が厳しい中で、説明資料を作成し要望をしましたが、結局過去の大会補助金の最少金額となってしまいました。

そんな中で、広告収入を一定額確保できたことが、大会のスムーズな運営に繋がりました。

関ブロ大会を振り返ってみた時、全体会場のキッセイ文化ホールは、指定管理者のため一切の減免ができませんでしたし、又、開催地の松本市からは、よりよい関ブロ大会にしたいとの思いから様々なアイデアが出されましたが、何とか対応できたのも、大会運営費をそれなりに確保できたことが一番でした。やはり昔から言われているとおり「先立つ物は金」。このことを改めて実感しています。

地元事務局として関わって

松本市教育委員会（松本市中央公民館）
主査
中村 安広

私は地元松本市の事務局としてこの大会に関係したこともあり、大会組織や大会企画の運営について報告をさせていただきます。

1 はじめに：大きな組織運営に携わったこと

この大会は、内容・参加者規模もさることながら、その運営規模もとても大がかりなものでした。その運営主体は、実行委員会（県教育委員会・県公運協・松本市教育委員会）ですが、その運営スタッフとして4つの部会と27の係が実行委員会のもとに組織されました。総勢284名（延数）もの大所帯でした。

このような大きな組織を運営するにあたって、私の任務は、最終的に運営スタッフが主体的に動けるよう連絡調整することでした。この仕事は、思った以上に手のかかる役回りでした。こうした中でも、心掛けたことは、運営スタッフに大会内容を把握してもらいつつ、その中で出されたアイデア・検討事項を一緒に話し合い、その結果を実行委員会及び県事務局へ伝え、反映するよう調整することでした。当日になって混乱する場面もあり十分ではありませんでしたが、何とかその任務も大方果たせたのではないかと考えています。

実践記録

179

シリーズ

「元気の出るふるさと講座（上越市柿崎区・牧区）」

上越市立公民館 小池 和美

1 学習のねらい

上越市は、総面積の約68%が中山間地と言われる地域です。この中山間地では、社会経済構造の変化の中で、人口減少、高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加といった、集落の存続が危ぶまれる大きな地域課題を抱えています。

このような課題に直面している中山間地ですが、豊かな自然環境や美しい景観があり、山々に降った雪は川となり、美味しい米や野菜を实らせ、日本海の豊富な海の幸を育み、私たちの暮らしを支えてくれます。また、伝統芸能や農業技術など貴重な文化が伝承されている地域です。

この講座のねらいは、中山間地の魅力を再発見し、直面している課題や地域の特徴を生かした集落づくりについて考え、学び合うことで仲間づくりをすすめる、公民館を核とした地域の絆づくりを支援することです。今年度の新規事業として、4つの地区（柿崎、牧、大島、谷浜桑取）において講座を実施しました。

2 学習内容

この講座は3年間継続する講座として、今年度は「地域を知る」ことを重点的に企画しました。

この号では、柿崎区と牧区の内容を紹介します。

① 地域が直面する課題と向き合う（柿崎区）

柿崎区では、以前から実施していた成人対象の教養講座「ふるさと楽習塾」の拡大版として、8回コースで実施しました。内容は、「中山間地の現状と課題」「柿崎区の民謡を歌い踊る」「北陸新幹線開通と並行在来線」「清里区へ視察」「増えるイノシシの生態と被害対策」「柿崎区農業の担い手と語る」など、地域が直面する課題の学習が、盛りだくさんでした。

中でも、上越市清里区の視察は、市町村合併で同じ上越市となった中、他地区への理解を深めることの重要性を実感し、柿崎区を見直す機会となりました。



「清里区・グリーンファームを見学」

② 次世代のリーダーを育成（牧区）

牧区では、「食」をテーマに、5回コースで実施しています。内容は、「中山間地の現状と課題」「米粉と夏野菜を使った料理」「新米と秋の素材を使った料理」「雪太郎大根を使った料理」などで、子どもと一緒に参加可能にしたところ、主に30代の子育て世代が集まりました。

牧区で食文化の伝承や、高齢者の配食サービスなどの活動を行うNPO法人よもぎの会や、農事組合法人雪太郎の郷など、地域で活躍する女性陣に講師をお願いし、「地産地消・食の安全」「特産品の活用」「親子のふれあい」の観点を意識しながら、毎回賑やかに、楽しく活動を行いました。

普段の食生活では、あまり馴染みの無かった米粉や、ばななかぼちゃ、なますかぼちゃなどの「上越野菜」と呼ばれる食材などの活用方法を学ぶことができ、受講生の仲間づくりが深まりました。



「お父さん、お母さん、子どもも一緒に料理」

3 市長部局との連携

上越市では、平成23年6月に、中山間地域の振興に関する施策を継続的に推進するため、施策の基本理念や市の責務、指針等を明らかにした「中山間地域振興基本条例」が議員発議により制定されました。

これにより、各部局で関連施策が展開されていますが、この「元気の出るふるさと講座」もこの一環で開講したもので、市自治・地域振興課と連携しています。各地区公民館において、中山間地域における集落の実態調査の結果や、この条例の理念について学ぶことで、私たちのふるさとについて理解を深めるとともに、さまざまな学習を通して、「自分が地域の一員としてできることは何か」を考えることができる人が増えていけば、もっとこの地域は元気になっていくと思います。

大島区と谷浜桑取地区については、3月号で紹介いたします。お楽しみに！

公民館を拠点に

地域づくり

田麦山地域おこしの会



もつと故郷を元気にしていこうと、楽しく住める田麦山を目指し、一昨年度「田麦山地域おこしの会」が立ち上がった。公民館分館(旧小学校)を地域づくりの拠点(地域の拠り所)として整備を図り、空き室等を活用した住民サロンや住民の五百人パネル・歴史文化等の展示、田麦山編集局(情報発信)、図書室の充実、子ども遊びの場、更に旧学校プールを花壇に活用するなど、地域づくり・地域助け合い・世代を超えたコミュニケーションの拠点による更なる地域コミュニティの活性化に取

り組んでいる。

また、地域づくりワークショップを通じ、バードウォッチングや伝統芸能「はねおけさ」の復活、更に郷土料理のレシピ化など、楽しく住める田麦山に向けて頑張っている。

長岡市・田麦山地域おこしの会
大淵 公男 記



歌い楽しむを皆さんに

五泉♥ローズ

生涯学習課が開催した「ゴスペル講座」の受講生を中心に自主サークルを結成して、今年で十二年を迎えます。

毎週一回集まって、楽しく歌っています。日頃あまりがちなストレスを、大きな声を

出して発散させています。

発足当時は、ゴスペルを中心に歌ってきました。最近は叙情歌からポップス、ジャズ風のものまで、いろいろなジャンルの曲を歌っています。近年では地域の学校や幼稚園、デイサービスセンターなどからも出演の依頼がきています。

毎年十月に行われる市民音楽祭に出演しています。練習の励みにもなりますし、ステージでの衣装を考えたりすることはとても楽しいことです。機会がありましたら、ゴスペルだけではない私たちの歌を、どうぞ聴きにきてください。



五泉市・五泉♥ローズ
安楽城 晃子 記

4月から阿賀町公民館津川分館に配属になりました安澤周一郎主任を紹介します。

社会教育関係経験者ということもあり、初めからバリバリ仕事をこなしています。

さまざまな公民館講座や阿賀町文化協会の事務局などを担当していますが、子どもからお年寄りまで対応はお手の物で事務仕事も効率良くこなし、年数ばかり長くなってきた私も見習うべき所が多々あります。

阿賀町公民館津川分館
主任 安澤周一郎さん



第一印象はとても真面目で固そうなイメージでしたが、娘さん一押しの黄色いリラックマのスマホカバーを使っているお茶目な一面もあるアットホームパパ。

これからもますます活躍していただけると期待しています!

(阿賀町公民館津川分館 森山 竜大 記)

胎内市黒川地区公民館職員の森主任を紹介いたします。

森さんは今年度から公民館へ配属となり1年目を終えようとしています。高齢者大学やふるさと芸能発表会、展覧会、様々な公民館事業に取り組み市民のみなさんと交流を深めています。その交流の場となる公民館の施設管理も森さんの役割です。天井に上り雨漏りの補修に奮闘する姿を何度も見てきました。

また森さんは趣味も多彩で、

胎内市黒川地区公民館
森 敬史さん



テニス、スキー、バンド活動と幅広く、趣味を活かし公民館で「初心者ギター教室」を開催しました。もちろん講師はバンドでギターを担当する森さんです。和気あいあいとした教室の中でみなさん演奏を楽しんでいました。

次はどんな企画があるのでしょうか。今後のより一層の活躍に期待しています。

(胎内市生涯学習課 今井 達也 記)

素顔
拝見

恵贈資料紹介

「日本公民館学会年報 第9号」

本書は、毎年発行される公民館学会の平成24年度版年報です。本書では、前年の8号に続き「公民館職員研究Ⅱ」として特集を組んでいます。

全編189ページにわたり、第1部 特集 公民館職員研究Ⅱ 第2部 自由投稿論文 第3部 日本公民館学会第10回研究大会記録 第4部 日本公民館学会研究活動報告 第5部 公民館をめぐる動向が掲載されています。

特に、第5部では、平成23年



度新潟県公民館大会講演講師の石井山竜平氏の論文と書評が掲載されています。興味深い内容になっています。また、全国公民館の一年間の動向が整理されわかりやすく掲載されています。

発行 日本公民館学会

問い合わせ

〒305-8572

つくば市天王台1-1-1

日本公民館学会事務局

筑波大学人間系生涯学習研究室

電話

080-3402-5967

FAX

029-853-6721



お元気ですか

本保ちづ子 (粟島浦村)



退職後の生活を考えてはいたが、いざ退職するとなかなか思うようにはいかないものである。今一番の楽しみは野菜づくりと孫の成長である。先輩達に教えてもらいながらの野菜づくり。小さいながらも自分で作った物となると味もまた格別である。その野菜と漬物、手づくりの羊羹等子ども達や知りあいに送るのも楽しみのひとつである。一ヶ月二回の「室内でのゲートボール」に参加し心身共にリフレッシュし、「てご編み教室」に参加し、作り方を覚えたら布でショルダーバッグを作ったりと知人にあげて喜ばれている。人生折り返し点は過ぎたけれどこれからもいろいろな事にチャレンジして行きたいと思う。

自然豊かな人情味あふれる粟島に一度おいで下さい。

information

<いじめ根絶県民会議>

第2回いじめ根絶県民会議が下記により開催されました。事務局長が参加しました。県公連は当会議の構成団体です。

日時 平成25年1月31日(木)午後3時～
会場 新潟県教職員組合会館 大会議室
新潟市中央区新光町7-4

<社会貢献者表彰>

「人命救助」「社会貢献」「海の安全等特定分野」「東日本大震災救難活動」に貢献された方や団体を表彰する推薦募集を下記により行っています。

応募期限 平成25年4月30日(消印有効)
応募書類等の詳細は 公益財団法人・社会貢献財団
東京都港区新橋1-11-3
電話 03-3502-0910

地すべり被害を未然に防止するため 取り組んでいます

協議会会員12市町では国土保全を念頭におき、地すべり地域の保全と自然環境の保護及び地域振興に取り組んでいます。

そのため、農業・農村整備事業による地すべり防止対策と関連事業による農業並びに生活基盤の改善を積極的に推進しています。

新潟県農地関係地すべり防止事業推進協議会
会長(妙高市長) 入村 明(会員12市町)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館(新潟県市長会内)
TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

事 務局長のつぶやき
今日は「節分」で、いつものように賑やかな豆まきの様子が見られます。最近「アルジェリアの人質死亡」とか「体罰」とか嫌なニュースばかりなので、豆をまいて「悪」を追い出して欲しいものです。ところで、豆をまきまきとは、一家の主が正しく、寺では年男がまくなど威厳があるものとか。子どもが小さいときは、保育園でもらって来た鬼の面をかぶらせられて、豆をぶつけられる役は父親、一家の主導役はお遊ばし、一家の主に向かっける「オニ」は外！とあります。(田原)